

アイリックコーポレーション

火災保険一括見積サイトの加入傾向を調査 朝日火災のホームアシストが首位

保険ショップ「保険クリニック」を展開し、総合保険コンサルティングサービスを行うアイリックコーポレーションはこのほど、各保険会社の火災保険プランの保険料を二括で比較・見積もりができる総合サイト「火災保険クリニック」(http://www.ic-hikaku.com/kasai)の2周年を機に、サイトオープン以来の加入ランキングなどを集計し、発表した。調査期間は、2014年1月24日～15年12月31日。

火災保険料率・制度改定で、問い合わせ数が増加

同社の発表した契約申込数総合ランキングによ

ると、1位は朝日火災の「ホームアシスト」(家庭総合保険)。2位は富士火災の「未来住まい」(家庭用火災総合保険)で、3位は三井住友海上の「GK すまいの

保険・スーパーロング」(家庭用火災総合保険)だった(表)。同社では、15年10月に火災保険料率の改定と10年超の長期契約の新規契約ができなくなったに伴い、特に戸建ての持ち家にかけている火災保険を見直す気運が高まったとしている。

改定前には顧客の資料請求が急激に増加し、15年7月からの半年間で前年1年間の新規契約数を上回った。

震災後、地震保険の加入率高まる

また、家財保険加入率は52・1%、地震保険加入率は65・1%だった。14年時点で、全国平均28・8%(注1)の世帯が地震保険に加入しており、都道府県別の最高加入率は宮城県の50・8%。新たに火災保険に加入する人が同時に地震保険

表 契約申込数総合ランキング

1位	朝日火災	ホームアシスト(家庭総合保険)
2位	富士火災	未来住まい(家庭用火災総合保険)
3位	三井住友海上	GK すまいの保険・スーパーロング(家庭用火災総合保険)
4位	東京海上日動	トータルアシスト 住まいの保険
5位	損保ジャパン日本興亜	THE すまいの保険

にも加入する割合は、10年度までは70%に満たなかったが、14年度には85%を超えた(全国平均59・3%、出典元：損害保険料率算出機構「14年度速報」、注2)。

今後、17年1月にも、地震保険料と制度の改定が行われる予定となっている。同社では、「地震が起きた際の危険度の再計算や、新たな損害区分の設定により、全国平均で5・1%の地震保険料率の引き上げを皮切りに、段階的な引き上げが発表されており、再び関心が高まると予想される」としている。

火災保険クリニックは、1999年に日本で初めてオープンした保険ショップ「保険クリニック」が運営している。火災保険の保険料を一括で比較・見積もりできる総合サイト。

複数の保険会社の火災保険について、さまざまな条件によって検索した保険料や保障内容を、一画面で比較できるだけでなく、資料請求や電話・メールによる相談、申し込みなどの手続きができる。サイト上では7社、問い合わせでは11社の商品の見積もりが可能。アイリックコーポレーションによれば、生命保険の加入時には主流となっており「保険会社をまたいでの保険プランの比較」を、火災保険の分野でも実現しているという。



「火災保険クリニック」のサイトイメージ